

横浜市議員



月刊・伊藤ひろたかの 1分でわかる市政レポート

伊藤ひろたか事務所 〒226-0003 緑区鴨居3-3-2 川端ビル1F ホームページ: <http://hiro-chan.net>
TEL & FAX 935-7850 e-mail: voice@hiro-chan.net(PC) hero1001@ezweb.ne.jp(携帯)

税金のムダ使いって何だろう？

税金のムダ使い。当たり前という言葉ほど、その意味を突き詰めて考える必要があると私は思います。「仕事自体が目的になっている事業」がその1つだと私は考えますが、では、どうすれば、そういった事業を止めさせることができるのか。そのヒントを探りに九州に視察に行ってきました。公会計制度の改革と併せて実行すれば、効果が表れると私は確信しています。

今 でこそ喫煙率は下がりましたが、お父さんのタバコ代。これは家計にとってムダでしょうか？それとも必要な経費でしょうか。あるいは、お父さんの飲み代。これは家計にとってムダでしょうか、それとも必要でしょうか。

家 の財布を預かるお母さんからすれば、「お父さんがタバコを我慢してくれたら、あと一回お肉料理が増やせるのに」とか、「お父さんがお酒を飲む回数を1回減らしてくれたら、その分、外食が出来るのに」などと思うことでしょう。

方、お父さんの立場からすれば、「タバコ1本吸うことで、ストレスの発散になって仕事がはかどるんだ」「お酒の席があるから、仕事がうまく回るんだ」と主張したいところでしょう。さて、どちらが正しいので

しょうか。

税 金のムダ使いの議論は、家計におけるお父さんのタバコ代、お酒代の議論に似た部分があります。だからこそ、思うのです。税金を使って実施した事業の費用対効果を議会で議論すべきだ、と。そして、費用対効果が誰の目にも分かるように情報公開すべきだ、と。残念ながら、今はそのような状態にはなっていません。

そ こで今回、事業の費用対効果をしっかりと検証し、翌年度の予算に反映させている、先進的な取り組みをしている自治体を視察しました。

行 き先は熊本県合志市と、鹿児島県霧島市。熊本空港から車で15分。熊本市のベッドタウンである合志市は人口、約5万5000人の都市。平成18年に市町村合併によって誕生しました。同



略歴
1977年生 33歳
2002年 早稲田大学大学院
理工学研究科修了

2002年 日経BP社入社
主に知的財産、環境、ITなどを
記者として取材

2007年 横浜市議会選挙
2008年 マニフェスト大賞
最優秀アイデア賞
受賞

2009年 マニフェスト大賞
最優秀成果賞
ノミネート

無所属クラブ 副団長
こども青少年・教育委員会
委員
大都市行財政度特別委員会
委員

市の事業評価は市町村合併の平成18年度からスタートしました。そして、合志市の事業評価は全国的にも極めて、うまく運用されており、決算審査の結果が翌年度の予算に反映される仕組みになっています。

何より秀逸なのは、「仕事を目的にしない。仕事の成果は何かを常に意識する」、ことが徹底されています。当たり前のように、この当たり前のことがなかなか出来ないのが行政組織です。最初は目的を持って始めた事業が、いつしか仕事そのものが目的になってしまい、役割を終えた事業を今でも続けているというケースが見受けられます。



合志市は違いました。1つひとつの事務事業について、市の総合政策に対して、どの程度貢献しているか、目標に対して進捗状況はどうか、年度ごとに課長、係長でチェックします。そして、その結果を議会にも公開し、市民にも公開します。その資料が夏休み前に公開されますから、議員は家に持ち帰って必死に読み込みます。そして、お盆明けに常任委員会が開かれ、しかも連日開催され、行政による事業評価を評価します。ここで前年度



の事業に対して費用対効果を徹底的にチェックし、翌年度の予算に反映されています。

大変、素晴らしい取り組みです。組織の規模が違い過ぎますので、そっくり真似するのは難しいですが、一考の価値はあります。今後、横浜市に導入できないか検討したいと思います。

そして、もう1つ実現したいのは会計制度改革。国も地方も単式簿記で管理していますが、これでは事業の費用対効果は分かりません。企業会計と同じように複式簿記に切り替えれば、合志市や霧島市のような事業評価はもっと容易になります。要は自治体会計を誰もが分かる形に整えて、徹底して情報公開していく。それだけで行政の非効率は大いぶ解決します。

